

Ⅲ 委員会活動

医療安全管理委員会

文責／遠山和博

◎目的

医療安全は患者および医療従事者、病院関係者に関わる重要な分野である。年々病院機能における医療安全管理に求められる質・量とも増加傾向である。また、不十分な管理は病院全体を巻き込む大きな問題へと発展する可能性もあり、本委員会においては慎重かつ徹底した医療安全管理の追及を行うよう、安全対策・教育・情報収集など行っている。安全で安心な医療機関と評価いただけるような病院を目指し、運営している。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：遠山和博(医療安全管理責任者／診療部)
副委員長：加藤真理子(安全管理室専任者／看護部)、
成田 薫(事務部)

書記：檜貝修之(事務部)

診療部：遠山正博、長尾建樹

医療技術部：渡邊典子、松永直起、加藤佑里

リハビリテーション部：菅原直彦、足立明久

健診部：吉岡千晶

看護部：伊藤恵美、印南里子、酒和昭子

事務部：大木勇司、松村 研、今井映美

佐倉ホワイエ：香取文男

◎開催日

第3月曜日、午後0時45分

◎活動報告

1. インスリン関連のインシデントレポートが多いことを受けて、投与確認は従来のインスリン管理票から電子カルテのワークシートを用いた運用方法に変更し、周知した。
2. ベッドサイドにかけていたホワイトボードは落下の危

険があるため禁止とし、ベッドネームプレートを導入した。

3. 医療安全講習会として、全職員向けにKYT 研修を実施した(2回/年)。
4. 暴言・暴力禁止のポスターを作成し、院内掲示した。
5. 千葉県看護協会主催のチームステップス研修会に参加した。
6. 定期的に印旛地区医療安全担当者連携会議に参加した。
7. 千葉県看護協会主催の医療安全大会に参加した。
8. 東邦大学医療センター佐倉病院におけるトリアージ訓練に参加した。
9. 医療安全講習会として、eラーニング(「転倒転落について」)を実施した。
10. 医療安全分科会「テーマ：これからの医療安全を考える」に参加した。
11. 提供食にビニール片が混入した事例があったため、再発防止策・事故対応マニュアルの再検討を行った。
12. eラーニング(「診療放射線の安全利用について」)を実施した。

◎今後の目標

1. 2025年度の病院機能評価受診に向けて、医療安全部門の修正点を改善していく。
2. 臨床倫理的な観点からも問題抽出に取り組み、倫理委員会と協力しながら問題解決する仕組みを活性化させる。
3. 研究テーマを検討・実施した上、医療安全に関する学会や医療安全大会などにて成果を発表することで、学術的・地域医療的な貢献をしていく。

院内感染対策委員会

文責／中臺 昭

◎目的

病院内の感染予防のため、院内の必要なサーベイランスを行いながら、感染対策に必要な情報や技術を収集しながら共有し、各メンバーが情報や技術を十分取得するとともに、院内各スタッフ、入院患者、来訪者に情報を伝達できるよう、マニュアルの整備、各種掲示、研修会等を充実させていく。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：中臺 昭(診療部)

副委員長：高田美里(診療部)、渡邊典子(医療技術部)、

前川名緒子(医療技術部)、田中陽子(看護部)

診療部：遠山正博、長尾建樹

医療技術部：永井麻紀、池浦あゆみ

リハビリテーション部：前田泰宏、安東晋介

看護部：伊藤恵美、印南里子、加藤真理子、篠澤慶子、

菊池美奈子、中臺和枝、青木時枝、田中香織、

藤井尚美、原 恵美(訪問看護ステーション)

事務部：大木勇司、佐野香苗、鳥羽裕子、錦織綾乃、

檜貝修之、豊田陽子

佐倉ホワイエ：清治恵子

◎開催日

第2水曜日、午後1時

◎活動報告

- 院内感染の状況把握および分析、情報の管理、提供
 - MRSA・緑膿菌・インフルエンザ・感染性胃腸炎等を対象とし、上記感染症のレポートを作成した。
 - 週1回、全病棟のICTラウンドを義務付けし、効率よく効果的な巡視ができるように尽力した。
 - COVID-19の予防対策、院内発生に際しての院内感染防止体制の構築等の助言・指示を行い、感染症の院内発生を予防し、発生時の体制作り注力した。
 - 院内のCOVID-19発生の予防、拡大防止のため、発熱、上気道炎症状等の職員家族に対する早期の抗原検査・PCR検査の実施、感染症発症時に休職できる体制を作った。入院患者については、原則、発熱があれば、抗原検査を行い、早めの患者を割り出した。その後は隔離と診療対応した。
 - 疥癬の患者もアウトブレイクに相当する発生があったが、業務実績の低下を防止するため、一部、基準を緩めた。
- 院内および外部からの院内感染防止に関する情報の収集、整理、分析、提供
 当院では成田赤十字病院ほか5病院と4診療所、印旛保健所も出席する、院内感染対策に係わる連携合同カン

ファレンスを行っている。主にICTメンバーが参加し、成田赤十字病院開催の研修会や院内感染に関するディスカッションを行った。

- 院内職員に対する院内感染防止のための教育、研修、啓蒙活動
 - 研修会や勉強会の開催、委員会開催時、必要情報の配布
 - 研修会開催
 - 【全職員対象】
 - 「感染症の基礎知識と感染防止の基本」
 - 「感染予防に役立つ消毒・感染防止の基礎知識」
 - 「院内肺炎—嚥下性肺炎を中心に—」
 - 【新人対象】
 - 「院内感染の基礎知識と感染防止の基本について」(2回/年)

◎今後の目標

- COVID-19、インフルエンザ等のアウトブレイクの予防と早期発見、対応および早期終息できる体制作り。
- 院内アウトブレイク時の業務制限は、ある程度実績が維持できるように、制限事項を検討する。
- 院内感染予防のため、職員の抗体検査と予防接種ができる環境を充実させる。
- 発熱外来を実施するとともに、地域の関連病院と連携を取り、周辺のCOVID-19の早期収束に寄与する。

診療委員会

文責／長尾建樹

◎目的

日常診療における各職種間の良好な連携を図り患者サービスの向上および診療実績の向上を目指す。前身の病棟運営委員会を拡大したものとして、診療全般における横断的な問題を討議する。

◎メンバー(2024.3現在)

- 委員長：長尾建樹(診療部)
 副委員長：遠山和博(診療部)、伊藤恵美(看護部)、大木勇司
 診療部：遠山正博、中臺 昭、横瀬 節、高田美里
 医療技術部：渡邊典子、永井麻紀、田代浩之、前川名緒子、及川野絵子
 リハビリテーション部：菅原直彦、足立明久、佐藤 光
 健診部：吉岡千晶
 看護部：加藤真理子、中臺和枝、印南里子、篠澤慶子、青木時枝、田中香織、榎本奈々、藤井尚美、奥田真依(訪問看護ステーション)
 事務部：成田 薫、佐野香苗、吉井大仁、鳥羽裕子、馬場久美子、檜貝修之、小澤智之

佐倉ホワイエ：香取文男、高橋隆彦
 (厚生園ケアマネジメントセンター)

◎開催日

第2月曜日、午後1時

◎活動状況

- 病床稼働率、日当点、医療区分割合などの稼働状況を分析した上で、収益上の問題点と外来から入退院へ至る効率的な運営を検討し、稼働率の向上を目指すと同時に外来診療の問題点も検討した。
- コロナ禍におけるクラスター発生などに対する診療現場全般における対策を検討した。病院全体として感染拡大の阻止に努めると同時に発熱外来の運営に関しても多職種で検討を行った。
- 病棟設備、備品、常備薬に関する問題点と改善に向けての施策を検討した。

◎今後の目標

- 診療全般にわたる問題点を多職種で横断的に解決し、効率的で高い収益性を持った診療を実践する。

2.積極的に必要な機器、設備を無駄なく購入できるよう検討し、診療内容の向上を図る。

3.今後、本委員会関連の会議との統合を図り、効率的で迅速な運営が遂行できる体制を構築する。

褥瘡対策委員会

文責／高田美里

◎目的

当院における院内褥瘡対策を討議・遂行し、適切な褥瘡治療を提供によることでADLを含めた全身状態の改善を図る。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：高田美里(診療部)

副委員長：圓城寺美佳(看護部)、藤井尚美(看護部)

医療技術部：永井麻紀、佐藤睦子、及川野絵子、

池浦あゆみ、加藤佑里

リハビリテーション部：大芦恵太、清水敬之、

佐藤 光、太田智子

看護部：中條優子、佐野真弓、荒川比呂美、根本優子、

永井左和子、吉田博子、瀬戸景子、荒井勝貴、

児島浩子、大野裕正、大瀬健吾、

小林美鈴(訪問看護ステーション)

事務部：柏熊裕子、長谷川あこ

佐倉ホワイエ：米嶋いつ子

◎開催日

第3水曜日、午後1時

◎活動報告

1.月間発生転帰報告

2.褥瘡回診：毎週水曜日実施

(参加者：専任医師・専任看護師・病棟薬剤師・

管理栄養士・リハビリ療法士)

3.褥瘡の予防対策、状態把握と評価

①発生リスクアセスメント実施

②褥瘡診療計画書作成

③DESIGN-R2020による褥瘡経過の評価

④NSTチーム、リハビリ部との協働、栄養状態の評価

⑤勉強会の開催

4.研修会参加

【院内】・看護部新人研修「褥瘡予防」(圓城寺美佳)

・「看護補助者業務を遂行するための基礎的な知識技術～褥瘡について・日常生活にかかわる業務、快適安心ケアについて～」(圓城寺美佳)

・「経口摂取時、経管栄養時の正しいポジショニングについて」(圓城寺美佳、根本優子)

・「NSTについて⑩」(圓城寺美佳)

・「IAD(失禁関連皮膚炎)を予防するためのスキンケア」(中條優子)

【院外】・第25回日本褥瘡学会学術集会 参加者：圓城寺美佳

・臨床スキンケア看護師臨床研修 参加者：中條優子

5.褥瘡治療実績(2023.4.1～2024.3.31)

褥瘡件数【内訳】

持込件数 25件(15人)持ち込み率0.02%

院内発生 49件(41人)院内発生率0.06%

治癒 34件(30人)(前年度繰越を含む)

死亡退院 26件(18人)

転医・転院 5件(4人)

◎今後の目標

褥瘡ケアの正しい知識・技術の提供を継続していく。NST委員会・リハビリ部と協働し、褥瘡の早期治療および発生予防に対して、栄養面、除圧面からのアプローチを行う。

教育研修委員会

文責／遠山和博

◎目的

①院内多職種職員の職務上の知識の研鑽を促し、知識に精通できるように研修会を企画・実施する。

②医療・研究を推進し、学会発表につなげる。

③教育・研究を通じて、信頼される医療・看護の提供ができるようにする。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：遠山和博(診療部)

副委員長：永井麻紀(医療技術部)、篠澤慶子(看護部)

書記：飯島智恵子(事務部)

リハビリテーション部：佐藤 光、足立明久

看護部：印南里子

事務部：吉井大仁、横山 愛、遠藤友美

佐倉ホワイエ：平澤美枝子

◎開催日

第4木曜日、午後0時45分

◎活動報告

1.各部署から提出された年間計画をもとに、日程調整を行った。研修会予定表への記載を研修会主催者に依頼した。

2.提出された研修会の開催案内を各部署に配布し、職員閲覧場所へ掲示し、周知した。今年度から院内ALL

メールでも開催案内を送付した。

3. 研修会終了後、アンケートを回収・分析し、随時、研修会の開催依頼を行った。集計作業効率化のため、従来のアンケート用紙への記載以外に、Teamsのアンケート機能を用いた回収を開始した。
4. 委員から各部署から依頼のある研修内容について情報収集し、講師の選定・依頼・開催を行った。
5. 教育研修委員会主催による「新人職員研修会」を年2回(4月/10月)開催した。内容は「接遇」「医療安全」「院内感染」「就業規則」であった。
6. 経費削減・SDGsへの対応として、研修会資料の事前印刷・配布を取りやめ、ネットワーク上でのファイル公開とした。
7. 佐倉グループ研究発表会を2023年11月18日に開催した。
8. 2024年度より学研のeラーニングシステムの導入が決

まり、運用方法を討議した。必修内容やスケジュールの確認・作成を行った。

◎今後の目標

1. 佐倉厚生園病院職員としての質を高めるため、さらに充実した研修会を企画する。委員会内での議論に加え、病院職員から講演希望のリクエストを広く受け付ける体制を整備する。
2. 院外講師を招聘し、社会情勢に合わせた最新の情報を収集することで、学べる講演会の企画を行っていく。
3. eラーニングを用いた研修の最適化について、検討を続ける。
4. 研修会参加確認およびアンケート回収について、Teamsのアンケート機能に集約し、集計作業の効率化を進めるとともに、職員毎の研修会参加確認および受講推奨などをシステム化していく。

●2023年度 院内研修実施一覧表

番号	開催日	テーマ (内容)	演者 (発表者)	参加者 人数 合計
1	2023.4.4	看護部新人職員研修「看護部の理念・心得」	伊藤恵美	14
2	2023.4.5	看護部新人職員研修「薬について」	長尾明美	14
3	2023.4.5	看護部新人職員研修「NSTについて」	永井麻紀・池浦あゆみ	14
4	2023.4.5	看護部新人職員研修「栄養について」	加藤佑里	14
5	2023.4.5	経管栄養剤の違いを知っていますか	及川野絵子	30
6	2023.4.6	看護部新人職員研修「摂食嚥下について」	佐藤 光	14
7	2023.4.7	看護部新人職員研修「患者の移動方法・移乗方法」	清水敬之	11
8	2023.4.10	新人研修 ～院内感染～	中臺 昭	19
9	2023.4.10	看護部新人職員研修「口腔ケアの必要性」	岸本恵美・鈴木浩子	14
10	2023.4.11	新人研修 ～接遇～	伊藤恵美	14
11	2023.4.11	看護部新人職員研修「DMチームの活動」	藤井尚美	10
12	2023.4.12	新人研修 ～就業規則～	原田一樹	20
13	2023.4.12	看護部新人職員研修「感染予防の知識を理解する」	榎本奈々	19
14	2023.4.13	新人研修 ～医療安全～	加藤真理子	21
15	2023.4.13	看護部新人職員研修「医療安全について」	加藤真理子	21
16	2023.4.14	看護部新人職員研修「看護倫理について」	印南里子	14
17	2023.4.19	看護部新人職員研修「褥瘡予防」	圓城寺美佳	20
18	2023.4.21	看護部新人職員研修「看護記録の必要性」	青木時枝	15
19	2023.5.10	看護補助業務における感染防止	榎本奈々	18
20	2023.5.16	コーチング	伊藤恵美	13
21	2023.5.15	看護補助業務における感染防止	榎本奈々	17
22	2023.5.20	春のウォーキング	清水敬之	17
23	2023.5.22	看護補助業務における感染防止	榎本奈々	20
24	2023.5.29			17
25	2023.5.31	看護記録の重要性	青木時枝	36
26	2023.6.7	日本臨床栄養代謝学会学術集会の伝達講習会	秋葉彩香・太田智子・及川野絵子・永井麻紀	26

番号	開催日	テーマ (内容)	演者 (発表者)	参加者 人数 合計
27	2023.6.13	看護補助者との協働の必要性	篠澤慶子	83
28	2023.6.14	看護補助業務における感染防止	榎本奈々	9
29	2023.6.15	当院の食事について	加藤佑里	36
30	2023.6.16	看護学生を受け入れる心構え	山本清美	17
31	2023.6.27	排尿自立支援加算①算定に向けて	菅原直彦	37
32	2023.6.29	危険予知訓練	縣 正興	264
33	2023.7.3	医療チームの一員として働く看護補助者業務の理解	伊藤恵美	22
34	2023.7.5	誤嚥性肺炎患者の静脈栄養と経口摂取について	(株)大塚製薬工場	18
35	2023.7.11	看護補助者の制度的な位置づけ	篠澤慶子	88
36	2023.7.14	伝わるプレゼンテーション	菊間友晃	23
		糖尿病教室		
37	2023.7.15	糖尿病腎症を知ろう	藤井尚美	17
		間食について	池浦あゆみ	
38	2023.7.25	お薬の溶け方の違いを確認しよう	長尾明美	30
39	2023.7.28	感染症の基礎知識と院内感染防止(基本再生産数)	中臺 昭	265
40	2023.7.31	看護補助者業務を遂行するための基礎的な知識技術～褥瘡について・日常生活にかかわる業務、快適安心ケアについて～	圓城寺美佳	72
41	2023.8.2	経腸栄養時の胃食道逆流とその対策	(株)明治 阪元直輝	32
42	2023.8.4	夜間の緊急対応について	遠山和博・看護部教育委員	40
43	2023.8.22	医療安全の重要性を知る	加藤眞理子	68
44	2023.8.23	医療、介護関連肺炎NHCAP誤嚥性肺炎を中心に	高田美里	263
45	2023.8.30	インスリンについて 医療安全の観点から	渡邊典子	38
46	2023.8.31	看護補助者と協働する看護業務の基本的な考え方	田中香織	78
		糖尿病教室		
47	2023.9.2	糖尿病のお薬について・糖尿病の検査	渡邊典子	8
		糖尿病と歯周病の関係について	臨床検査検査技師・ 歯科衛生士	
48	2023.9.6	摂食嚥下・口腔ケア	ネスレ日本(株)	29
49	2023.9.8	看護者、看護補助者の基本姿勢と態度	印南里子	88
50	2023.9.19	インボイス制度と電子帳簿保存法に伴う立替精算について(動画研修へ)	池田大介	0
51	2023.9.21			
52	2023.9.22	医療ガスの種類と取り扱い	エア・ウォーター 東日本(株)	77
53	2023.9.26	NSTについて	永井麻紀	42
54	2023.9.27	看護補助者との協働のためのコミュニケーション	田中香織	79
55	2023.10.4	嚥下造影検査(VF)について	永井麻紀	31
56	2023.10.6	情報セキュリティと当院のこれから	松村 研	179
57	2023.10.10	新人研修 ～医療安全～	加藤眞理子	6
58	2023.10.11	新人研修 ～接遇～	伊藤恵美	4
59	2023.10.12	情報セキュリティと当院のこれから	松村 研	86
60	2023.10.13	新人研修 ～就業規則～	原田一樹	4
61	2023.10.19	新人研修 ～院内感染～	中臺 昭	5
62	2023.10.19	骨粗鬆症の治療継続について	船登規孝	58
63	2023.10.24	看護記録の重要性	青木時枝	69

番号	開催日	テーマ (内容)	演者 (発表者)	参加者 人数 合計
64	2023.10.25	標準予防策と消毒薬について	前川名緒子	250
65	2023.10.30	自施設における看護補助者に係る規定及び運用	田中香織	87
66	2023.11.1	NSTについて⑩	圓城寺美佳・根本優子	31
67	2023.11.10	看護研究発表会	新井勝貴・根本優子	36
68	2023.11.18	秋のウォーキング～佐倉の秋を楽しもう～	リハビリテーション部	7
69	2023.11.18	佐倉厚生園グループ研究発表会2023年度	新井勝貴・根本優子・ 遠山和博・高橋健次・ 菊池嘉志	127
70	2023.11.22	ラインケア研修会「当院の集団分析結果を基に業務向上につなげる」	(株)情報基盤開発 村上大介	42
71	2023.12.4	セルフケア研修会	(株)情報基盤開発 村上大介	202
72	2023.12.5	ストレスチェックの振り返りを行う		
73	2023.12.6	NSTについて⑪	岸本恵美	22
74	2023.12.8	認知症の看護	縣 正興	42
75	2023.12.12	KYT研修(危険予知トレーニング)	北野通子・斉藤未央・ 原田志保	244
76	2024.1.18	生体モニターの使用方法	フクダ電子(株) 近藤知己	82
77	2024.1.20	災害時に備えて～イメージしてみよう・知っているようで知らない食品分類について～糖質量を見直そう	石井明香	11
78	2024.2.6	創傷に対する陰圧閉鎖療法について	スミスアンドネフュー (株) 小峰孝博	55
79	2024.2.7	NSTについて⑫	永井麻紀	36
80	2024.2.9	輸液ポンプの取り扱い方	(株)TOP 森田知樹	78
81	2024.2.21	IAD(失禁関連皮膚炎)を予防するためのスキンケア	中條優子・(株)ベージェルプラス 根本孝司	62
82	2024.2.29	排尿のメカニズム	佐倉ゆうゆうの里診療所 柳下次雄	62
83	2024.3.8	人工呼吸器の取り扱い方	日本光電工業(株)	79
84	2024.3.12・ 14・15	報告文化を醸成しよう	SOMPO Pseラーニング	198
85	2024.3.26-29	診療用放射線の安全利用		175
86	2024.3.16	糖尿病教室		
		「糖尿病の患者様が市販の薬を飲む前に知っておきたいこと」～市販薬との上手な付き合い方～	長尾明美	6
		「糖尿病合併症を発見する検査を知ろう!」～早期発見!行うべき検査とは～	實方莉紗	4
合計				4,640

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

◎目的

患者の治療効果を高めるために、栄養状態の改善を図るとともに多職種が連携し栄養障害の早期発見・早期介入を行うことで早期改善を目指すことを目的としている。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：永井麻紀(医療技術部)

診療部：高田美里

医療技術部：北見紀子、及川野絵子、岸本恵美

リハビリテーション部：佐藤 光、太田智子、
石川 修、秋葉 彩香

看護部：圓城寺美佳、若松香寿美、細根ふさ子、

中條優子、加賀谷裕子、荻原真喜子、

荒川比呂美、根本優子、河瀬優加子、大野裕正、

永井左和子、木崎よし子

事務部：長谷川あこ、鈴木弘子

◎開催日

第1水曜日、午後1時

◎活動報告

①2023年4月より「栄養サポートチーム加算」算定を開始した。

②日本臨床栄養代謝学会「NST稼働施設認定」の認定施設として、入院患者の栄養評価、栄養管理の指導・提言を行った。療養病棟は週1回、回復期リハビリ病棟は月2回、栄養障害の疑われる患者に対する栄養回診・症例検討をした。栄養障害の問題点を明確にし、適切な栄養療法の指導・提言を行った。また、患者限定栄養剤を使用中の患者の栄養状態の確認および継続の可否を検討・提案した。

【2023年度(4月-3月)NST回診実績】

NST回診件数：新規86人、継続165人、終了55人

NST加算算定件数：180件、

NST加算算定外件：121件

③褥瘡対策委員会と協働し、褥瘡のある患者に対し、適切な栄養療法の提案を行った。

④NST勉強会を開催し、病院スタッフの栄養療法に対する知識の普及・指導を行った。

「経管栄養剤の種類と違いについて」 演者：永井麻紀、及川野絵子(2023.4.6)

「日本臨床栄養代謝学会 JSPEN2023伝達講習会」

演者：永井麻紀、及川野絵子、太田智子、秋葉彩香(2023.6.1)

「誤嚥性肺炎患者の静脈栄養と経口摂取について」

演者：(株)大塚製薬工場(2023.7.6)

「経管栄養時の胃食道逆流とその対策」演者：(株)明治(2023.8.3)

「摂食嚥下と口腔ケア」演者：ネスレ日本(株)(2023.9.7)

「嚥下機能検査(VF)について」演者：佐藤 光(2023.10.5)

「経口摂取時・経管栄養時の正しいポジショニングについて」演者：圓城寺美佳、根本優子(2023.11.2)
佐倉厚生園グループ研究発表会「NST加算算定のとりくみ」演者：永井麻紀(2023.11.18)

「安心安全に食べられるお口づくり「ドライマウス(口腔乾燥症)の対応」(経口摂取編)」
演者：岸本恵美(2023.12.7)

「脂肪って、ナニモノ？」演者：永井麻紀(2024.2.1)

「日本臨床栄養代謝学会JSPEN2024伝達講習会」
演者：永井麻紀、佐藤光、太田智子、北見紀子、池浦あゆみ(2024.3.7)

⑤学会・研修会・実習 参加者

「第38回 日本臨床栄養代謝学会学術集会」
永井麻紀、及川野絵子、太田智子、秋葉彩香(2023.5.9-10)

「第39回 日本臨床栄養代謝学会学術集会」
永井麻紀、佐藤光、太田智子、北見紀子、池浦あゆみ(2024.2.15-16)

「JSPEN臨床栄養代謝専門療法士セミナー(リハビリテーション専門療法士セミナー)」永井麻紀(web)

「NST専門療法士更新必須セミナー」永井麻紀(web)

「NST専門療法士受験必須セミナー」北見紀子、池浦あゆみ(web)

◎今後の目標

- ①「栄養サポートチーム加算」算定数を継続する。
- ②日本臨床栄養代謝学会の「NST稼働施設認定」の継続を目指す。
- ③栄養障害の早期発見・NSTの早期介入を行うことで、栄養状態の早期改善を目指す。
- ④褥瘡対策委員会と連携を図り、治療効果を上げる。
- ⑤積極的に栄養に関する学会や研修会に参加し、NST委員の知識の向上を図る。
- ⑥院内研修会や勉強会を定期的で開催し、病院全スタッフの栄養療法に対するモチベーションとスキルアップを目指す。
- ⑦NSTに関する研究介入を行い、成果をまとめ、学会等で発表を行う。

排尿自立支援委員会

文責／菅原直彦

◎目的

- ・入院患者の排尿自立を支援し、患者のQOL向上に寄与する。
- ・下部尿路機能障害に対して早期介入し、適正使用でないカテーテル留置をなくす。
- ・院内スタッフの排尿ケアに関する知識、技術の向上に寄与する。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：菅原直彦(リハビリテーション部)

副委員長：細根ふさ子(看護部)、大瀬健吾(看護部)

診療部：長尾建樹

医療技術部：長尾明美、北見紀子

看護部：中條優子、吉田博子

事務部：下田菜広

◎開催日

カルテ回診・ラウンド：毎週木曜日、午後1時

定例会議：第3木曜日、午後1時30分

◎活動報告

①院内向け研修会

- 「排尿自立支援加算を算定するために」(2023.6.27)
- 「排尿のメカニズム」(2024.2.29)

②活動実績

- ・回復期病棟：対象者40名(カテーテル抜去)、加算延回数217回
- ・療養病棟：対象者6名、加算延回数6回
- ・カテーテル留置日数(平均)34.5日

◎今後の目標

- ・不要なカテーテル留置の抜去を行い、早期から下部尿路機能障害にアプローチすることで患者のQOL向上に努めていく。
- ・病院全体に効果的な排尿ケアを広めていきたい。
- ・病棟看護師との情報共有をスムーズに図れるようなシステムの構築。

その他委員会・会議

会議・委員会				
名称	委員長 (所属部署)	目的	活動報告	開催日
運営会議	長尾建樹 (診療部)	佐倉厚生園病院および関連する佐倉ホワイエ、訪問看護ステーション、ケアマネジメントセンターに加え、佐倉厚生園グループの一員であるさくら苑と一体的で効率のよい運営を目指し、各委員会や会議体から挙げてきた問題点を広い見地から検討する。またグループ全体の発展を目指し、地域医療へ貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> ・収支、医療サービスの問題点の改善を促進するために検討し、各委員会の活動計画の見直しや承認した上で迅速に実践できるよう周知徹底を図った。 ・コロナ禍における病棟管理に関する各方面からの意見と要望をまとめ、収支への影響を最小限にとどめる方法で最終決定を行い実践した。 ・医療機器の購入に関する最終決定の場として確立した。 	第4月曜日
経営委員会	長尾建樹 (診療部)	収支を中心に経営の安定的な発展のため、各職種間で収支状況の問題点を共有することで増収を目指す。以前の収支改善経営会議の拡大により横断的かつ病院が一体として活動できる組織とした。	<ul style="list-style-type: none"> ・病床稼働率、日当点、医療区分割合などの稼働状況を分析する。さらに収益上の問題点を検討し、収支の問題点を明らかにする。各現場でのサービスを低下させることなく効率的な収支改善を図っている。 ・コロナ禍におけるクラスター発生などに対する診療現場全般において収支に影響させない方策を検討し、今後も含め感染症に強い収支態勢構築を目指している。 ・医療機器の購入に関して必要性の検討を多職種で行うことで、公平な機器備品の整備を行えるようになった。 	第4月曜日
災害対策委員会	大木勇司 (事務部)	設備の老朽化に伴う防災設備を更新する。各部署における防火・防災対策を横断的に行い、有事の際、適切に対応できるよう整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導灯のLED化(一部) ・防災訓練の実施 	随時

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

会議・委員会				
名称	委員長 (所属部署)	目的	活動報告	開催日
倫理委員会	長尾建樹 (診療部)	医学研究所所長より諮問された、ヒトを対象とする医学研究および医療行為などについて、ヘルシンキ宣言(1964年採択および2013年世界医師会フォルタレサ総会での修正)の趣旨に沿って、臨床研究に関する倫理指針(厚生労働省)等に準拠し審査を行う。病院長の諮問機関として当院の倫理の質を向上させ、その水準を高く維持する。	随時、各部署からの論文発表や学会での口演における倫理審査を行っている。審査に際し、委員に厳正な判断を促すための正確な情報や考え方を提供をしている。	委員長招集時
医療ガス安全管理委員会	檜貝修之 (事務部)	医療ガスの安全かつ適正な使用に向け、体制整備を行う。	医療ガスパイピングの年次点検実施。	随時
医学研究推進会議	遠山和博 (診療部)	院内各部署からの研究テーマの提出を促し、会議内外で積極的なサポートを行う。また医学研究所より配分される研究費を予算内で効率的に活用できるように検討する。その他研究活動に関わる議題について自由討議を行う。	会議での議論に加えて、各部門の研究担当者と個別に研究内容についてのディスカッションや研究計画書作成のサポートを行い、各種学会・講演会での発表につなげた。論文作成指導など行い、投稿や改訂作業の補助を行った。	第2金曜日
薬事審議委員会	渡邊典子 (医療技術部)	医療を行う上で必要な医薬品、血液製剤等の情報を提供し、医薬品の適正使用の推進と診療の質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品安全対策情報に基づいた添付文書改訂情報の提供を行った。 ・供給不足の医薬品について情報提供を行った。 ・院内採用医薬品について検討を行った。 ・電子カルテ運用開始に伴い、処方入力関連事項について各部署と協議した。 	第4月曜日
臨床検査適正化委員会	前川名緒子 (医療技術部)	検体検査における重要事項を審議し、管理運営の適正化を図る。精度管理の確認および院内関連部署と検査室の双方からの要望、変更改善事項などを検討する。	精度管理の確認、検査機器メンテナンスを行い、検査項目の変更等について周知した。臨床検査システム(ER)に未登録の検査項目でも、要望があった場合、検査依頼を受けられる手順を定めた。	第2月曜日
ドック健診委員会	吉岡千晶 (健診部)	充実した医療サービスの提供を検討し、ドック健診業務の効率的な運営を図る。	健診の運営に関する事項について、関係各部署代表者が集まって検討し、決定した。	奇数月 第4火曜日
保険査定返戻検討委員会	中基 昭 (診療部)	毎月の査定返戻事例をもとに検査治療などの保険請求上の問題点を検討する。	保険請求上、保険医として円滑で正確な診療の実施を目指した。	第3月曜日
診療記録等開示委員会	遠山和博 (診療部)	外部より診療録の開示要求があった場合、その要求の正当性を審査するとともに個人情報保護を確保し、開示に応ずる。	今年度は特に事例がなかったため開催はなかった。	病院長招集時
個人情報保護推進委員会	遠山和博 (診療部)	職員に対し個人情報保護についての教育を実施し、個人情報が漏洩しないシステム作りを構築することを目的とする。	定期的に個人情報保護関連の研修会を実施した。順次、院内システムへの不正アクセス防止のための施策を進めている。	年3~4回
栄養給食委員会	及川野絵子 (医療技術部)	<ul style="list-style-type: none"> ・嗜好調査に基づき患者の食事の改善を図る。 ・安心安全な食事を提供し、栄養状態の改善を図る。 ・経腸栄養剤、栄養補助食品の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事食など、食事に関しての発信・報告。 ・褥瘡委員会とともに対象者の治療と予防のための栄養管理の検討・実施。 ・補助食品の導入の検討。 ・栄養管理システム導入の検討。 	第3水曜日
広報・ホームページ運用委員会	檜貝修之 (事務部)	院外への広報活動とホームページ運営。	広報活動と広報活動の管理およびホームページのリニューアルを目指した。	第4金曜日

会議・委員会				
名称	委員長 (所属部署)	目的	活動報告	開催日
診療録 管理委員会	遠山和博 (診療部)	<ul style="list-style-type: none"> 診療録が量・質ともに充分であるかを管理するため、運用方法やチェック方法などを討議し、実施する。 院内電子カルテシステムを運用することによって改善が必要な点については、情報収集を行い、改善する。 	診療録管理のためのルールを作成し、運用を開始した(医師による生理検査レポートと褥瘡経過記録の確認方法、退院サマリーの記載ルールについてなど)。	第3木曜日
衛生委員会	大木勇司 (事務部)	<ul style="list-style-type: none"> 職員の健康保持増進、労働災害の防止に係る対策を検討する。 労働安全に係わる諸規定の整備、相談窓口の充実化、ストレスチェックの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 院内巡視の実施 7月：ストレスチェック実施 10月：ラインケア研修(ビデオ学習)開催 	第3月曜日
予算委員会	長尾建樹 (診療部)	<ul style="list-style-type: none"> 医療経済環境および過去の実績を基に予算編成を行う。 上半期終了時点で当該年度の収支状況を鑑みてきめ細かく収支状況を把握し、当該年度の修正予算を立てることで、柔軟な対応による実効的な予算編成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療材料や医療機材の購入・更新、施設改修などの設備投資、人材登用などによる支出を審議し、次年度予算を策定した。 上半期終了後、補正予算を組むことで、収支状況の改善目標を明らかにした。 	委員長招集時
グループ 連携委員会	成田 薫 (事務部)	佐倉厚生園病院グループが目的とする事業の遂行ならびに本邦で推進されている地域包括ケアシステムに対するグループ内施設の有効活用と各施設の経営安定化。	例年各グループにて得た各種情報の共有と諸問題の検討を行い、有意義な成果を上げてきた。来年度以降診療報酬および介護報酬改定に伴い、今後はグループ情報交換会として新たな会議体系の運営を予定している。	委員長招集時

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

IV トピックス

佐倉厚生園病院グループ研究発表会2023年度

2023年11月18日(土)実施

真心と信頼

●プログラム

開式の挨拶 長尾建樹 病院長(13:00~13:10)				
研究発表演題				
演題記号	演者	演題	座長	開始時刻
A-1	看護部 荒井勝貴 他	療養病棟におけるお看取りの徴候の時期別特徴	菅原直彦 リハビリテーション部長	13:10
A-2	看護部 根本優子 他	療養病棟での口腔ケアに関する意識調査と今後の課題		13:20
A-3	診療部 遠山和博 診療部長	回復期リハビリテーション病棟入院患者の心理的特徴		13:30
休憩10分(13:40~13:50)				
A-4	リハビリテーション部 高橋健次 他	入院時家屋調査は回復期リハビリテーション病棟の退院時FIM利得を引き上げる	田中香織 看護師長	13:50
A-5	佐倉ホワイエ リハビリテーション課 菊池嘉志	通所リハビリ利用頻度の違いが転倒リスクに及ぼす影響 第二報		14:00
休憩10分(14:10~14:20)				
委員会報告	医療技術部 永井麻紀 薬剤科科長	NST加算算定の取り組み	成田 薫 事務次長	14:20
委員会報告	看護部 加藤眞理子 副看護部長	患者安全に対する取り組み 3点認証システム導入の効果と今後の課題		14:50
講評 遠山和博 診療部部长(15:00~15:10)				
表彰 長尾建樹 病院長(15:10~15:15)				
閉式の挨拶 遠山正博 名誉院長(15:15~15:20)				

